

2025年8月17日

「はじめてのキリスト教」説教要約

## 王なる神をたたえる

(詩篇72・1～20)

### 一、特異な国イスラエル

アブラハムを始祖とするイスラエルは、聖書の舞台となった地域において、王を立てない特異な国でした。創世記には、バベルの王、すなわちバビロンの王ニムロデとか、ソドムの王、ゴモラの王等々、大勢出てまいります。イスラエルより歴史が古い古代エジプトでは王のことをファラオと呼び、歴史が続いていました。

古代イスラエルでは、神が王でした。その神は、モーセの時代に主(ヤハウェ)という名でご自身を現されました。ですがご存じのように、預言者であり、さばきつかさであったサムエルが年老いたとき、息子たちが墮落していたので、イスラエルの長老たちがサムエルの所に集まり、「私たちをさばく王を立ててください」と言いました。サムエルは、長老たちの申し出が主の御意思に適わないと受け止めました。ところが、サムエルが祈ると、主は彼らの願いを聞き入れるようにと語られました。こうしてイスラエルに王制が導入されました。とは言っても、近隣諸国のように、絶対君主のような王ではありません。王は地上において、神がなさることの代行

者でした。しかし所詮、王は人間です。初代の王サウルには致命的な欠陥があり、失脚させられました。次の王ダビデは信仰的で有能な王でしたが、赦される罪を犯しました。ですが、ダビデの悔い改めが本物だったので、王を四十年間務めるといふ「合格点」を取りました。次に王となったソロモンは、神から並外れた知恵を授かってイスラエルをさばき、エルサレム神殿の建築を完成させました。即位期間は四十年間でしたが、こちらは合格点というより「及第点」としての四十年、と受け取ったほうが良さそうです。なぜなら、人生の途中で偶像礼拝に傾き、イスラエルの信仰を曲げてしまったからです。

### 二、72篇は「のために」か、「による」か

これまでにお語りしたことは、詩篇72篇を読むための予備知識です。まず、表題をご覧ください。《ソロモンのために》とあります。実はこのように訳されているのは、私が見る限り、新改訳2017だけです。新改訳旧版は《ソロモンによる》でした。《のために》と、《による》では、かなり意味が異なります。他の訳は、文語訳は《ソロモンのうた》、口語訳も《ソロモンの歌》、新共同訳は《ソロモンの詩》、フランシスコ会訳は《ソロモンの詩歌》、聖書協会共同訳は《ソロモンの詩》です。訳によってかなり異なります。元のテキストは、

「ソロモンの」です。そういうわけで、「歌」とか「詩歌」とか「詩」ということは、元のテキストにはありません。元のテキストは「ソロモンの」なので、《ソロモンのために》か、《ソロモンによる》の意味になります。ですが、新改訳旧版のように《ソロモンによる》、すなわち「ソロモンが歌った」と理解したとしても、「ソロモンが歌ったものとして、後代の編集者が付けた」という意味合いにも受け取られます。私は、新改訳2017のように《ソロモンのために》歌われた詩篇、として受け取るのがよいと考えています。

作者は、72篇における王を理想的な王として描いています。1節をご覧ください。《神よ、あなたのさばきを主に／あなたの義を王の子に与えてください。》とあります。物事をさばき、人をさばくのは神の務めです。なお、脚注には《さばき》について、《あるいは「統治」と書かれています。その「さばき」「統治」を主に略与えてください》と語っているわけです。そうしますと王は神の代行者というよりは、神の代行者になります。2行目では《あなたの義を王の子に与えてください。》と語っています。《王の子》は、王の後継者である王子のことでありましょう。

2節は、1節の展開になります。《彼が義をもって、あなたの民をさばきますように。／公正をもって、あなたの

苦しむ民を。》と。「義」は、神だけがお持ちのご性質で、人が「義」を持ち、保ち続けることはできません。その義が、王と王の子に与えられるようにと語られていますから、72篇はイスラエルの王の即位式の時に歌われた可能性があります。神だけが持つておられる義が、地上の王に授けられ、王が神の代行者また代理者として統治できるように求める内容となっています。

### 三、私たちに啓示されたまことの王

聖書は主イエス・キリストが王であると証言していることを見逃してはなりません。そのように、マタイの福音書は語っています。マタイ2章1節、2節です。《マタイ2・1～2》と。続く4節、5節には《マタイ2・4～5》とあります。そして9節、10節、11節です。《マタイ2・9～11》とあります。

マタイの福音書は、単に物語として語っているではありません。主イエス・キリストこそ、まことの王である、と語っています。言い換えるなら、それが聖書による神からの啓示です。マタイの福音書は、イエス・キリストがメシアであり、王であると啓示しています。それゆえに、マタイの福音書では主イエス・キリストが王のたとえを多く語られています。それは、主イエス・キリストが王であることのメッセージであり、神からの啓示です。